

知って備える 防災メモ

第8回

特別警報

気象台は8月30日(金)から『特別警報』の発表を開始しました。

『特別警報』は、現在の警報発表基準をはるかに超える大雨や地震、津波、火山噴火などにより、重大な災害の起こる危険性が著しく高まっていることをお知らせし、特別な警戒を呼び掛けるものです。

過去の該当事例は、『東日本大震災』の津波や『平成23年台風第12号』の豪雨などです。

『特別警報』が発表されるのは、数十年に一度しかない大雨や暴風などにより、非常に危険な状況にあるときです。

周囲の状況や避難指示・勧告などに注意し、避難所や屋内の比較的安全な場所への避難など、直ちに命を守る行動を取ってください。



噴火

居住地域に影響が及ぶ噴火や火砕流の恐れが大きいときに発表



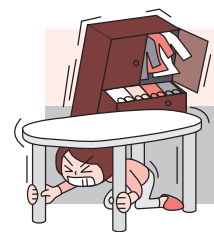
大雨

数十年に一度の大雨となる恐れが大きいときに発表



津波

内陸まで影響が及ぶ大津波の恐れが大きい(3m超)ときに発表



地震

緊急地震速報で震度6弱以上と予測したときに発表

問い合わせ
室蘭地方気象台

(☎) 22 4 2 4 9

人が輝き まちがときめく

仲間たち

Group

国際空手道連盟極真会館登別道場



楽しく、明るく、元気に稽古

『国際空手道連盟極真会館登別道場』は平成15年に発足し、毎週火曜日に若草つどいセンターで、初級班(18時〜)と上級班(20時〜)に分かれて稽古をしています。メンバーは小学生から中学生までの30人で、夏の盛りの暑さをものともせず、稽古が始まる前から元気いっぱい走り回っています。

「空手は武道なので礼儀正しく、あいさつをしつかりできることが大切です」と話すのは、指導者の苦侑我(くゆうが)さん。自身も小さい頃に空手を始めたので「指導している子どもたちの気持ちはよくわかります。一生懸命稽古をしている子には試合で勝たせてあげたいし、勝った時は自分のことのようにうれしいです」



▲ミットを使っでの蹴りの練習

と、指導にあたっての心持を語ってくれました。

「強くなりたい」と、6月から道場に通い始めた小学1年生の坪江(つらやま)慧士(けいじ)さんは「形の練習が特に面白いです。道場で友達もでき、走るのも速くなりました。以前よりも体力がついたとお母さんにも褒められます」と空手を始めてからの変化について教えてくれました。

苦さんは「試合で相手に打たれれば当然痛いですが。子どもたちは痛みを覚えて、相手への思いやりを身に付けます。空手を学ぶことで、暴力を振るわない心優しい子になります」と話してくれました。

見学を希望する方は、山崎(やまざき)さん(☎) 011-375-8511)まで。